

PDCAサイクルの意識強化について

従前の事業報告は、次の年度が既にはじまっている決算時期＝5月頃のみ 実施となっていたため、評価や報告を受けての計画策定という点で課題がありました。
←評価(チェック)をして計画策定(プラン)という流れになっていない形でした。

そこで、2022年度からは、期中＝12月頃 中間評価を行い、その評価や報告を受けて、計画策定を行うというサイクルに改めることになりました

計画策定において、社会福祉施設経営者協議会が、協議会として策定されているものも参考にしています。

将来的に、計画策定に関わる方を増やし、地域と共に、より高い意識で運営していけるようになることを目指しています。

事業計画策定フローイメージ（案）

作業者とならないように、使命感をもてるようにしていくことが到達点です。
 (こんな小話があります。AさんとBさんが石を積んでいました。建物をつくるために石を積んでいたのですが、Aさんは、単純に石を積んでいるだけです。面白くもないですし、やりがいの感じることができませんでした。Bさんは、その石が最終的に立派な建物になることを意識して石を積んでいました。AさんとBさんの意欲は違いましたし、出来上がったものはまるで違うものになったそうです) 我々の業界では、「苦痛を取り除きたい」「安心させたい」「困っている人を助けたい」「喜ばせたい」「感動させたい」といった、職員思いをいかにふくらませることができるか、そこからスタートすると思っています。

事業計画について、2022年度（2023年度実施分）から、下記のフローで作成していきます。
 2021年度は、試行段階として、評価時期の見直し（12月）、SWOT分析の導入（主に財務視点から）を実施しました。
 2022年度は、一歩進み、全部署の事業計画の参画を求めていきたいと思っています。職員が個人の思いだけでなく、事業所が地域から何を求められているかを意識し、組織に属する者として、自分だけでなく、法人（会社）の強み、弱みを把握しながら、行動していけるようになることを目指しています。
 難しく思うかもしれませんが、個々の職員は、利用者ひとりひとりに目を向け、その人の人生に関与しているという自覚をもつことから始めて下さい。それが目指す方向につながっていくということを自覚することから始めましょう。

実施だけでなく、計画との連動・循環を意識！

